



## 2021年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2021年4月30日

上場会社名 手間いらす株式会社  
 コード番号 2477 URL <https://www.temairazu.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡邊 哲男  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 木内 健二  
 四半期報告書提出予定日 2021年4月30日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 03-5447-6690

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年6月期第3四半期の業績(2020年7月1日～2021年3月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第3四半期	1,224	3.4	876	1.1	876	1.2	581	1.1
2020年6月期第3四半期	1,267	27.8	885	39.5	886	39.7	587	40.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第3四半期	89.68	
2020年6月期第3四半期	90.71	

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2021年6月期第3四半期	4,517	4,304	4,304	3,894	95.3	664.38
2020年6月期	4,287	4,304	3,894	3,894	90.8	601.20

(参考)自己資本 2021年6月期第3四半期 4,304百万円 2020年6月期 3,894百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期		13.00		13.50	26.50
2021年6月期		13.50			
2021年6月期(予想)				13.50	27.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年6月期の業績予想(2020年7月1日～2021年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,680	1.9	1,183	1.7	1,183	1.6	778	1.4	120.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年6月期3Q	6,479,280 株	2020年6月期	6,478,584 株
2021年6月期3Q	231 株	2020年6月期	171 株
2021年6月期3Q	6,478,736 株	2020年6月期3Q	6,477,959 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### ①わが国経済の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の長期化及び感染再拡大に伴い首都圏を中心に2度目の緊急事態宣言が発令されるなど、引き続き厳しい状況で推移いたしました。ワクチンの普及により感染症が収束し、経済活動が正常化へ向かうことが期待されるものの、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

#### ②当社業績と関連性が高い市場の状況

アプリケーションサービス事業と関連性が高い宿泊旅行業界においては、一時盛り上がりを見せたGo To トラベルキャンペーンが、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大により2020年12月28日から全国的に一時停止されました。また、2021年1月8日には、1都3県へ2度目の緊急事態宣言が発令され、続いて13日には11都府県に対象が拡大されました。2021年2月28日をもって6府県は解除されたものの、首都圏1都3県については同年3月21日まで再延長となり、人の動きが制限されることとなりました。観光庁の調査によると、東京発着の旅行を含めた全地域の旅行がGo To トラベルキャンペーンの対象となっていた2020年10月から11月にかけては、宿泊施設全体の客室稼働率が40%前後と回復の兆しが見え始めたのに対し、キャンペーンが一時停止となった2021年1月及び2月には、それぞれ23.48%、26.9%\*と20%台に低迷する結果となりました。

世界に目を向けると、ロックダウンなどの規制が継続されている国や地域がある一方、ワクチン接種完了者への行動制限緩和を行う国があったり、特定の国間での往来については入国時の隔離義務が撤廃されるなどの動きがあったりと、ワクチン接種の普及に伴いわずかながらも明るい兆しが見えてきました。しかしながら、日本国内では新型コロナウイルスの変異種による第4波と言われる感染拡大が懸念されていることから、宿泊旅行業界のみならず国内経済全体へ及ぼす更なる影響が心配される状況です。なお、当社への影響も懸念されるものの、当第3四半期末日現在において当社の予想と大きく乖離しているものではありません。

\*2月数値は第1次速報値であり、第2次速報値(2021年4月28日公表予定)で変更となることがあります。

#### ③業績の概況

このような環境の中、アプリケーションサービス事業においては、新型コロナウイルス感染症の拡大及び長期化による宿泊需要減少の影響が続いており、当第3四半期累計期間の売上高は1,224,260千円(前年同期比3.4%減)となりました。また、営業利益は876,092千円(前年同期比1.1%減)、経常利益は876,609千円(前年同期比1.2%減)、四半期純利益は581,002千円(前年同期比1.1%減)となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

#### アプリケーションサービス事業

宿泊予約サイトコントローラー『TEMAIRAZU』シリーズにおいて、宿泊施設の国内における販路拡大を図るため、auコマース&ライフ株式会社が運営するショッピングサイト『au PAY マーケット』及び『LUXA』の宿泊予約システムとの連携を開始しました。また、その他のシステム連携では、オーストラリアを拠点とするRMS社のプロパティマネジメントシステム『RMS Cloud』、及び株式会社リクルートライフスタイル（2021年4月1日より株式会社リクルート）のレベニューマネジメントシステム『レベニューアシスタント』との連携を開始しました。

営業活動においては、2021年2月16日から19日にかけて東京ビッグサイトにて開催された大規模イベント『国際ホテルレストランショーHCJ2021』に出展しました。その他、引き続きパートナー企業と共同ウェビナーを開催したり、『TEMAIRAZU』シリーズのWeb勉強会を開催するなど、非対面での営業・プロモーション活動を積極的に行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響による継続的な宿泊需要の減少から、当社売上においては月額変動収入への影響が継続しています。また、宿泊施設の休館や閉館、事業からの撤退などにより、主に小規模宿泊施設での解約も発生しています。新規契約については回復傾向にあったものの、2020年末から発生した感染拡大第3波とそれに伴う再度の緊急事態宣言発令の影響もあり、足踏み状態となっています。この結果、アプリケーションサービス事業の当第3四半期累計期間における業績は、売上高が1,186,323千円(前年同期比4.6%減)となり、セグメント利益は940,818千円(前年同期比3.8%減)と推移しました。

#### インターネットメディア事業

比較サイト『比較.com』においては、引き続き広告出稿の見直し、検索エンジンの最適化、ユーザーインターフェイスの改善、モバイルユーザビリティの向上等の対策を行いました。また、巣ごもり需要の継続も当社売上へのプラスの影響を及ぼしています。

この結果、インターネットメディア事業の当第3四半期累計期間における業績は、売上高が37,936千円(前年同期比52.1%増)となり、セグメント利益は24,707千円(前年同期比45.3%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第3四半期累計期間における資産合計は、前事業年度末に比べ229,976千円増加し、4,517,329千円となりました。流動資産は241,242千円増加し、4,460,470千円となりました。主な要因は現金及び預金の増加319,225千円です。固定資産は11,266千円減少し、56,858千円となりました。主な要因は繰延税金資産の減少7,128千円です。

#### (負債)

当第3四半期累計期間における負債合計は、前事業年度末に比べ179,759千円減少し、212,750千円となりました。流動負債は179,759千円減少し、212,750千円となりました。主な要因は未払法人税等の減少143,283千円です。なお、当社に固定負債はありません。

#### (純資産)

当第3四半期累計期間における純資産合計は、前事業年度末に比べ409,735千円増加し、4,304,579千円となりました。主な要因は四半期純利益581,002千円の計上による増加と配当金の支払い174,926千円です。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年6月期の通期の業績予想につきましては、2020年8月3日付の決算短信において発表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2021年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,971,358	4,290,583
売掛金	235,934	158,889
その他	19,966	14,521
貸倒引当金	△8,030	△3,523
流動資産合計	4,219,228	4,460,470
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,167	2,167
減価償却累計額	△2,167	△2,167
建物(純額)	—	—
工具、器具及び備品	27,586	30,649
減価償却累計額	△24,660	△28,748
工具、器具及び備品(純額)	2,925	1,901
有形固定資産合計	2,925	1,901
無形固定資産		
ソフトウェア	978	701
無形固定資産合計	978	701
投資その他の資産		
繰延税金資産	37,754	30,626
その他	29,612	28,161
貸倒引当金	△3,146	△4,533
投資その他の資産合計	64,220	54,254
固定資産合計	68,124	56,858
資産合計	4,287,353	4,517,329
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払法人税等	261,917	118,634
その他	130,591	94,115
流動負債合計	392,509	212,750
負債合計	392,509	212,750
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	713,433	715,438
資本剰余金	1,004,433	1,006,438
利益剰余金	2,177,243	2,583,319
自己株式	△266	△616
株主資本合計	3,894,843	4,304,579
純資産合計	3,894,843	4,304,579
負債純資産合計	4,287,353	4,517,329

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)
売上高	1,267,903	1,224,260
売上原価	89,258	91,991
売上総利益	1,178,645	1,132,269
販売費及び一般管理費	292,712	256,176
営業利益	885,932	876,092
営業外収益		
受取利息	386	346
その他	634	188
営業外収益合計	1,021	535
営業外費用		
その他	—	18
営業外費用合計	—	18
経常利益	886,954	876,609
税引前四半期純利益	886,954	876,609
法人税、住民税及び事業税	294,629	288,479
法人税等調整額	4,705	7,128
法人税等合計	299,335	295,607
四半期純利益	587,619	581,002

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

## I 前第3四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年9月25日 定時株主総会	普通株式	129,551	20	2019年6月30日	2019年9月26日	利益剰余金
2020年2月3日 取締役会	普通株式	84,219	13	2019年12月31日	2020年3月4日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## II 当第3四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年9月28日 定時株主総会	普通株式	87,458	13.5	2020年6月30日	2020年9月29日	利益剰余金
2021年1月29日 取締役会	普通株式	87,467	13.5	2020年12月31日	2021年3月1日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	アプリケーション サービス事業	インターネット メディア事業	合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額(注) 2
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,242,960	24,943	1,267,903	—	1,267,903
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,242,960	24,943	1,267,903	—	1,267,903
セグメント利益	977,973	17,003	994,976	△109,044	885,932

(注) 1. セグメント利益の調整額△109,044千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第3四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	アプリケーション サービス事業	インターネット メディア事業	合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額(注) 2
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,186,323	37,936	1,224,260	—	1,224,260
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,186,323	37,936	1,224,260	—	1,224,260
セグメント利益	940,818	24,707	965,526	△89,434	876,092

(注) 1. セグメント利益の調整額△89,434千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。